

序

萩原三雄さんは中世の歴史考古学者として県内外から高い評価を受け、とくに中世城郭や鉦山史の研究では全国にも名を馳せてこられました。山梨県内では帝京大学文化財研究所長として、その運営に卓越した見識と実行力を発揮されてきました。また山梨県考古学協会、山梨郷土研究会、武田氏研究会等、地域の歴史研究の深化と発展にも貢献されましたが二〇二二年二月十九日、七十五歳で逝去されました。

萩原さんは、山梨県甲府市東光寺三丁目八一〇番地に、一九四七年八月二十五日にお生まれになられ一九六五年甲府市第一高等学校を卒業、一九六七年早稲田大学第一法学部に入學、一九七一年同大学を卒業され、同年四月甲府市役所市議会事務局に奉職されましたが、二〇〇一年に財団法人山梨県文化財研究所に研究部長として就職され二〇一四年十二月に帝京大学文化財研究所長、さらには同大学院教授に栄進され全国の大学をフィールドとした研究活動を広げてこられたのです。

萩原さんは学生時代から山梨の遺跡の見学などを通して山梨の歴史に関心をもたれ、大学卒業後は甲府市役所に勤務の傍ら一九七三年萩原さんが中心になって甲斐丘陵考古学研究会を立ち上げました。この年の十二月には勝沼氏館跡の発掘調査を勝沼町より依頼され上野晴朗氏の指導のもとで行いました。

勝沼氏館跡の発掘調査ならびに保存運動は本県の史跡に対する本格的な保存運動第一号として当時評価されました。萩原さんは勝沼氏館跡の発掘調査を足がかりに中世の城館の研究にも手を染め、小学館の『日本の城』巻末「山梨県

城郭一覽」を作成、引き続いて山梨大学の磯貝正義先生のもとで丘陵のメンバーと『日本城郭大系8巻』山梨県の分野を執筆され、この道の研究者として仲間入りをしたのでした。

萩原さんは山梨郷土研究においても、若くして会の活動の一翼を担っていただき新進気鋭の研究者として卓越した手腕、力量を発揮され、歴史学、民俗学などの領域を越えた学際的な研究手法を取り組んでおられましたので、郷土研究会の伝統行事であった新夏草道中の復活や研究例会が定期的に実施されました。

またこの頃全国的に市町村史(誌)の出版ブームということもあって、甲府市史をはじめ県内の市町村史(誌)発刊にも若手の研究者を中心に企画、編さんをされました。また山梨郷土研究会の事務局を県立図書館から文化財研究所に移し機能的に活動が行われ、一九八七年には甲州市恵林寺境内武田信玄公宝物館に設立された「武田氏研究会」の事務局も氏の好意によって文化財研究所に移し山梨県の学術研究の向上を諮ってまいりました。

山梨県の考古学協会は来年設立四十五周年を迎えます。この会は一九七九年十月、上の平方形周溝墓群が発見されその保存運動を機会に、それぞれの活動を行ってききましたいくつかの県内研究団体や個人の研究者を一つに団結し「山梨県考古学協会」として設立しました。萩原さんは当初から創設の中心にあつて組織作りを進め、設立後も事務局長としての会の企画、運営、活動を勤め、同時に日本考古学協会全国委員として全国の文化財保護にも関わってまいりました。晩年二〇一四年から二〇一九年までは山梨県立考古学博物館の館長も務められ、本県の考古学研究や普及活動にも専念されたのです。

萩原さんが最も大きな転機を迎えられたのは、二〇〇一年からの山梨文化財研究所長として帝京大学の信頼のもと、大学系列の研究所長として県内はもとより全国の大学と手を携え研究活動を行ったことだと思えます。萩原さんは日本中世史研究の第一人者として知られていた網野善彦、石井進、五味文彦各先生方をお招きし、そのご指導のもと「考古学と中世史研究」のシンポジウムを一九九〇年から九十五年まで六回開催しました。報告書によりまずと

毎回全国から二百数十名の研究者が山梨に集い、二日間にわたり充実した研究討議が行われました。

考古学と文献史学、さらに隣接諸学との間に横たわつていた数々の問題点を新進気鋭の研究者たちが活発に討論する場となり、停滞傾向にあつた中世史研究の方法を見直す大きな契機として、全国的に評価を受けました。

このように日本歴史研究のうえで、中世考古学のいちじるしい研究成果を得たことは、所長でありました萩原さんの大きな功績でもありました。

この他にも県文化財保護審議会会長として文化財全体の調査、保存運動にも努められたほか、県立博物館建設運動の推進、山梨県史の調査編纂、富士山の世界文化遺産登録など、いくつもの要職を務められ、萩原さんがかわり積み上げてこられた功績は枚挙にいとまがなく、ここに幾多のご功績に対し深甚なる謝意を表す次第であります。

萩原さんは多くの著書を残されましたが、最後に私共に残して頂いた『戦国期城郭と考古学』『金山衆と中世の鉦山技術』の二冊はまさに萩原さんが生涯をかけて取り組んでこられた歴史考古学としての集大成であります。

萩原さんのこうした業績を讃えるべく氏の学恩に対しこのたび「萩原三雄氏追悼論集刊行会」を立ちあげ、萩原さんが自ら取り組んでこられた中世史研究に焦点を当てた追悼論集を萩原さんの三回忌を目前に編集、刊行いたしました。幸いに十八名の研究者からご執筆をいただきました。萩原さんの幅広いご研究を示すにふさわしい本書が本県の歴史考古学の研究の発展に寄与されることを願ひ、萩原さんのご霊前にお供えます。

なお本書の刊行にあたり、ご尽力いただいた高志書院にたいし厚く感謝の意を表します。

令和六年二月

萩原三雄氏追悼論集刊行会

会長 清雲 俊元